

第2章 松戸市における自殺の特徴

1 統計資料に見る現状

■ 統計資料について

本資料では、厚生労働省の「人口動態統計」と警察庁の自殺統計原票を集計した「自殺統計」の2つを掲載しています。「人口動態統計」と「自殺統計」では、以下のとおり調査対象などに違いがあります。

1 調査対象の差異

厚生労働省の人口動態統計は、日本における日本人を対象とし、警察庁の自殺統計は総人口（日本における外国人も含む）を対象としています。

2 調査時点の差異

厚生労働省の人口動態統計は、住所地を基に死亡時点で計上し、警察庁の自殺統計は発見地を基に自殺死体発見時点で計上しています。

3 事務手続き上の差異

厚生労働省の人口動態統計は、自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明なときは自殺以外で処理しており、死亡診断書等については作成者から自殺の旨、訂正報告がない場合は、自殺に計上していません。

警察庁の自殺統計は、捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、自殺に計上しています。

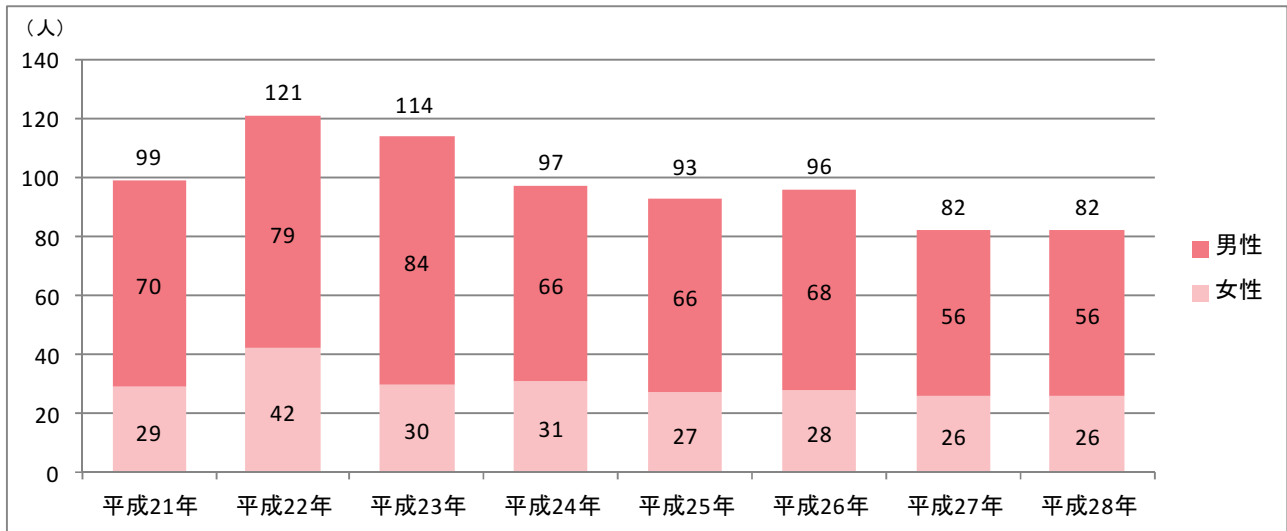
■ 松戸市の自殺統計

当計画の自殺者数、自殺死亡率については、WHOで使用されている「人口動態統計（厚生労働省）」を主に掲載しています。人口動態統計では得られない“その他の詳細項目（原因・動機別、職業別、自殺未遂歴の有無別、同居人の状況別）”については、「自殺統計（警察庁）」を使用しています。そのため、合計数に差異が生じています。

(1) 自殺者数の推移（松戸市）

松戸市の自殺者数は、平成22年の121人をピークに概ね減少傾向にあり、平成28年には82人となっています。男女別に見ると、男性のほうが自殺者数が多くなっていますが、男性より女性のほうが減少幅は小さくなっています。

図1 自殺者数の推移

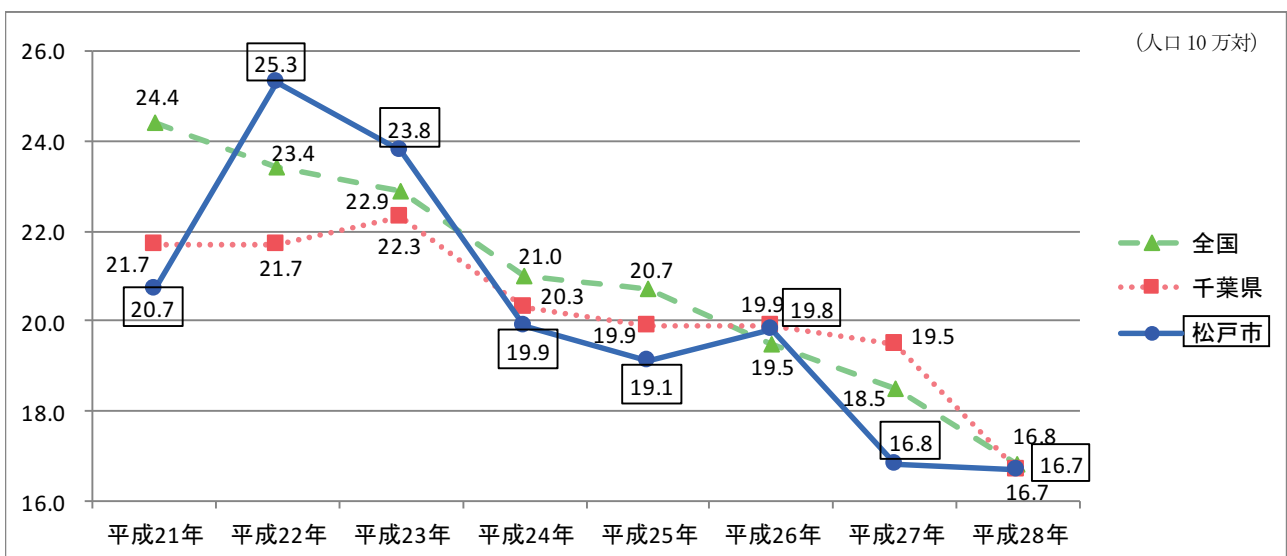


出典：人口動態統計（厚生労働省）

(2) 自殺死亡率の推移（全国、千葉県との比較）

松戸市の自殺死亡率は、平成22年をピークに概ね減少傾向にあり、平成28年には16.7となっています。平成24年以降は全国や千葉県と同等かやや下回っています。（平成28年は全国が16.8、千葉県が16.7となっています）

図2 自殺死亡率の推移

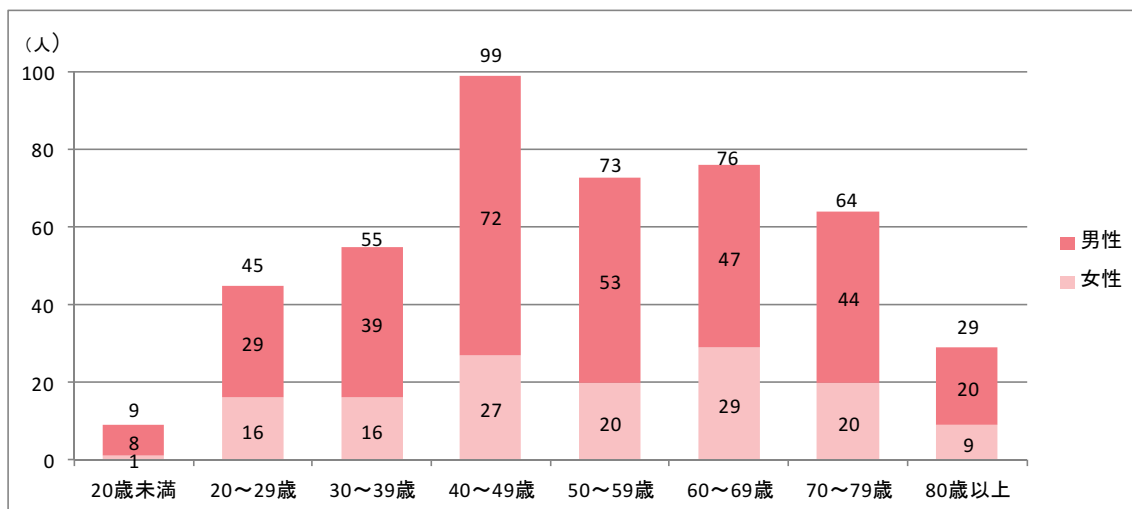


出典：人口動態統計（厚生労働省）

(3) 年代別自殺者数（松戸市）

平成 24 年から平成 28 年までの 5 年間の自殺者数は 450 人で、年代別にみると 40～49 歳が 99 人と最も多く、次いで 60～69 歳が 76 人、50～59 歳が 73 人、70～79 歳が 64 人となっています。男性では 40～49 歳が 72 人、女性では 60～69 歳が 29 人と最も多くなっています。

図 3 年代別自殺者数（平成 24～28 年の合計）



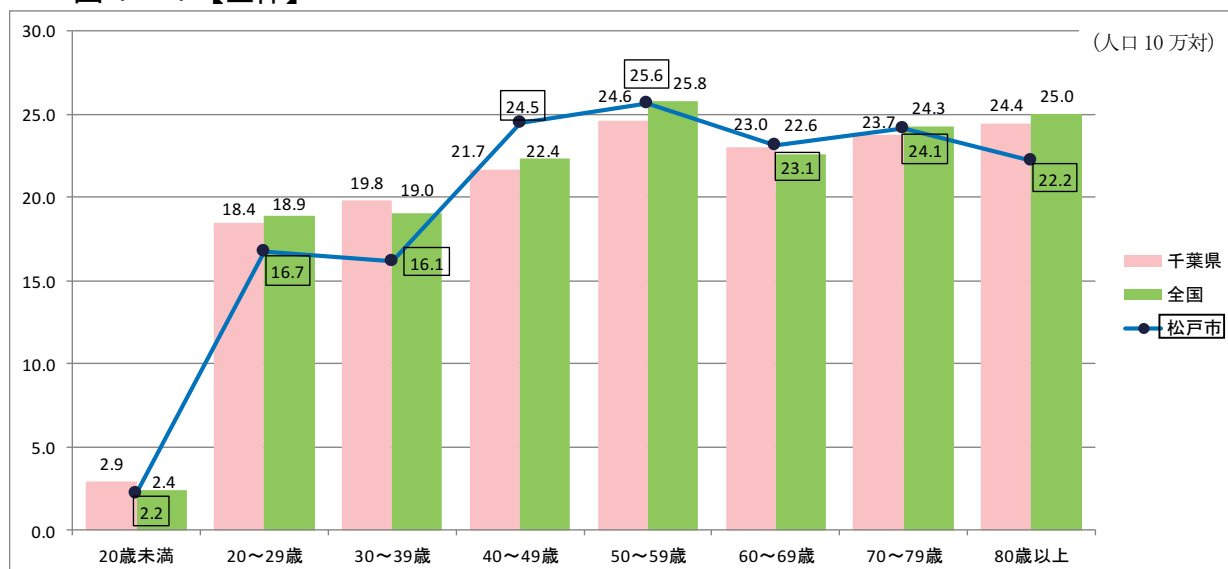
出典：人口動態統計（厚生労働省）

(4) 年代別自殺死亡率の割合（全国、千葉県との比較）

平成 24 年から平成 28 年までの 5 年間の年代別自殺死亡率の割合をみると、20 歳代、30 歳代で千葉県や全国と比べ低くなっていますが、40 歳代では高くなっています。

図 4 年代別自殺死亡率の割合（全国、千葉県との比較：平成 24～28 年の合計）

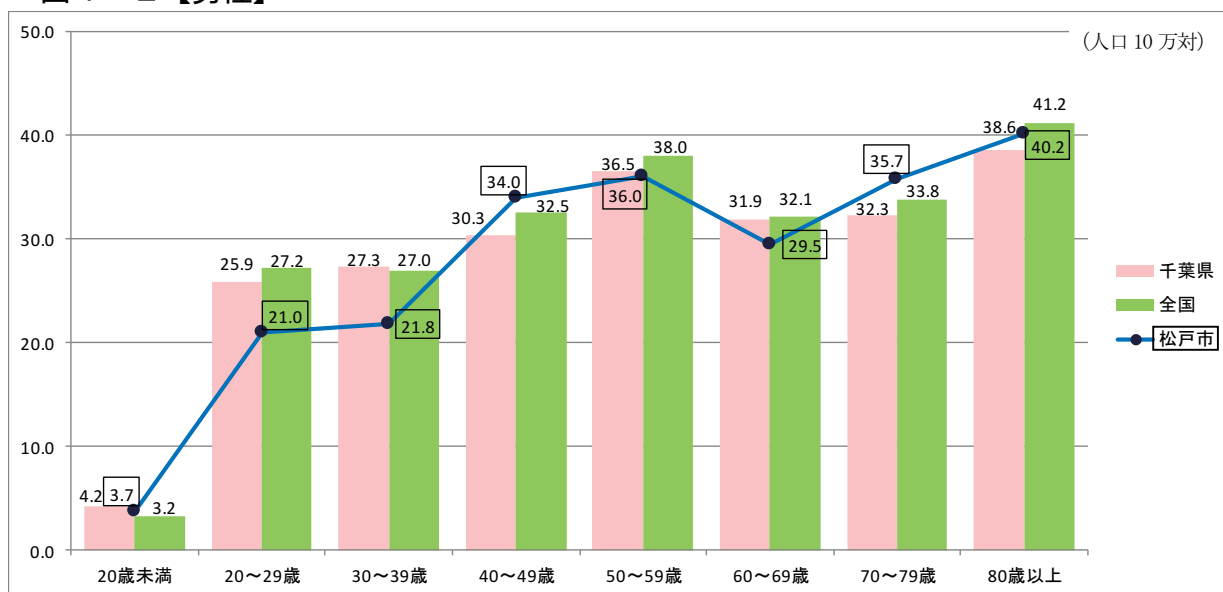
図 4-1 【全体】



出典：人口動態統計（厚生労働省）

男性の年代別自殺死亡率では、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代で千葉県や全国と比べ低くなっていますが、40歳代、70歳代では高くなっています。

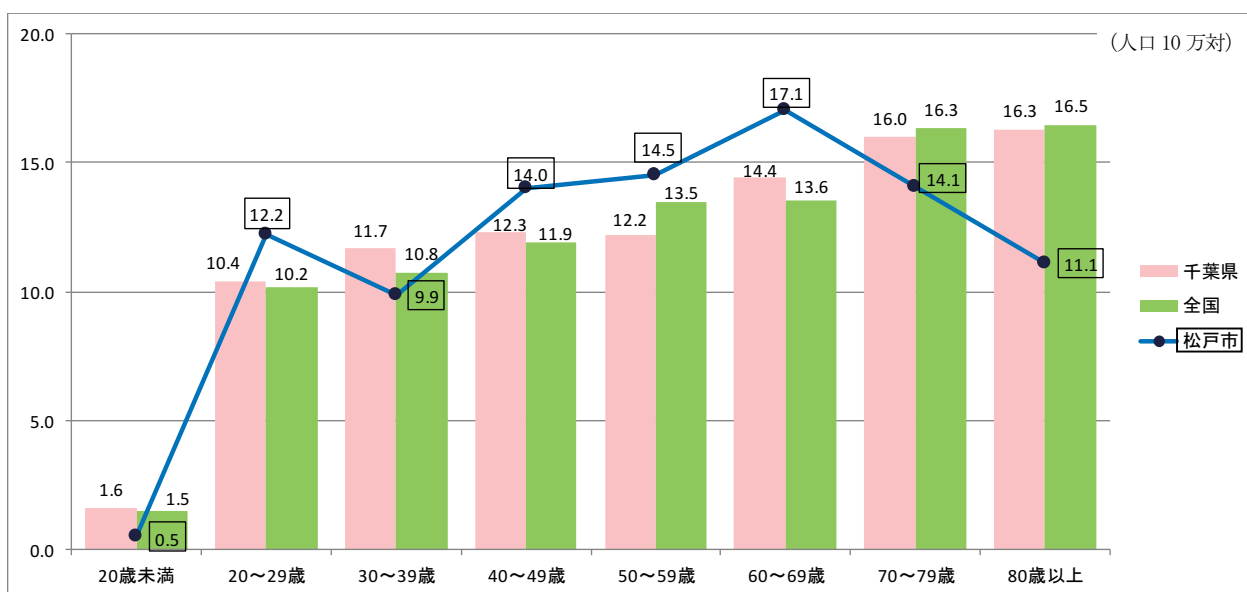
図4-2【男性】



出典：人口動態統計（厚生労働省）

女性の年代別自殺死亡率では30歳代、70歳代、80歳以上は千葉県や全国と比べ低くなっていますが、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代では高くなっています。全国では年齢が上がるにつれて自殺死亡率が高くなる傾向がありますが、松戸市では70歳代以降の自殺死亡率は下がっています。

図4-3【女性】



出典：人口動態統計（厚生労働省）

(5) 年代別に見た死亡原因（松戸市）

平成 24 年から平成 28 年までの 5 年間の年代別死亡原因を見ると、自殺は 20～29 歳、30～39 歳で第 1 位、20 歳未満、40～49 歳でも第 2 位となっており、若年者や働き盛りの世代で主要な死亡原因となっています。

表 1 年代別に見た死亡原因（平成 24～28 年の合計）

| 年代 | 第 1 位 | | 第 2 位 | | 第 3 位 | | ※死亡者 総数 |
|---------|-------|-------|--------------|-------|--------------|------|------------|
| | 死因 | 死亡者数 | 死因 | 死亡者数 | 死因 | 死亡者数 | |
| 20 歳未満 | 不慮の事故 | 12 | 自殺 | 9 | 悪性新生物 | 9 | 84 |
| 20～29 歳 | 自殺 | 45 | 不慮の事故 | 11 | 悪性新生物 | 8 | 87 |
| 30～39 歳 | 自殺 | 55 | 悪性新生物 | 50 | 心疾患 (高血圧性除く) | 23 | 186 |
| 40～49 歳 | 悪性新生物 | 170 | 自殺 | 99 | 心疾患 (高血圧性除く) | 78 | 548 |
| 50～59 歳 | 悪性新生物 | 391 | 心疾患 (高血圧性除く) | 157 | 自殺 | 73 | 910 |
| 60～69 歳 | 悪性新生物 | 1,301 | 心疾患 (高血圧性除く) | 375 | 脳血管疾患 | 202 | 2,624 |
| 70～79 歳 | 悪性新生物 | 2,064 | 心疾患 (高血圧性除く) | 777 | 脳血管疾患 | 394 | 5,060 |
| 80～89 歳 | 悪性新生物 | 1,688 | 心疾患 (高血圧性除く) | 1,148 | 肺炎 | 699 | 6,307 |
| 90 歳以上 | 老衰 | 683 | 心疾患 (高血圧性除く) | 638 | 肺炎 | 452 | 3,389 |

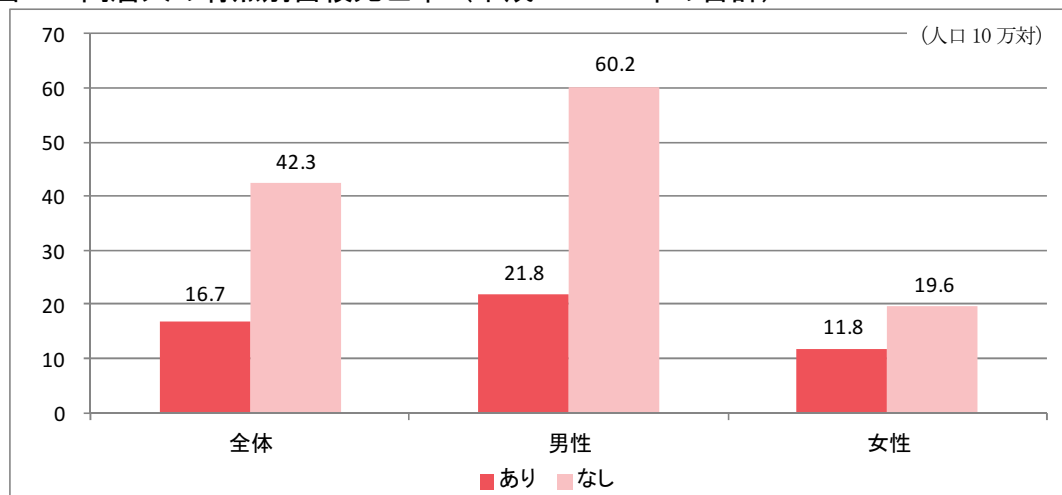
出典：人口動態統計（厚生労働省）

※死亡者総数：平成 24 年～28 年までの各年代の死亡者合計人数

(6) 同居人の有無別自殺死亡率（松戸市）

平成24年から平成28年までの5年間の自殺死亡率を同居人の有無別にみると、同居人「あり」が16.7であるのに対し、同居人「なし」では42.3と高くなっています。男女別に見ると、特に男性では同居人「なし」が60.2と同居人「あり」の21.8と比べてかなり高くなっています。

図5 同居人の有無別自殺死亡率（平成24～28年の合計）

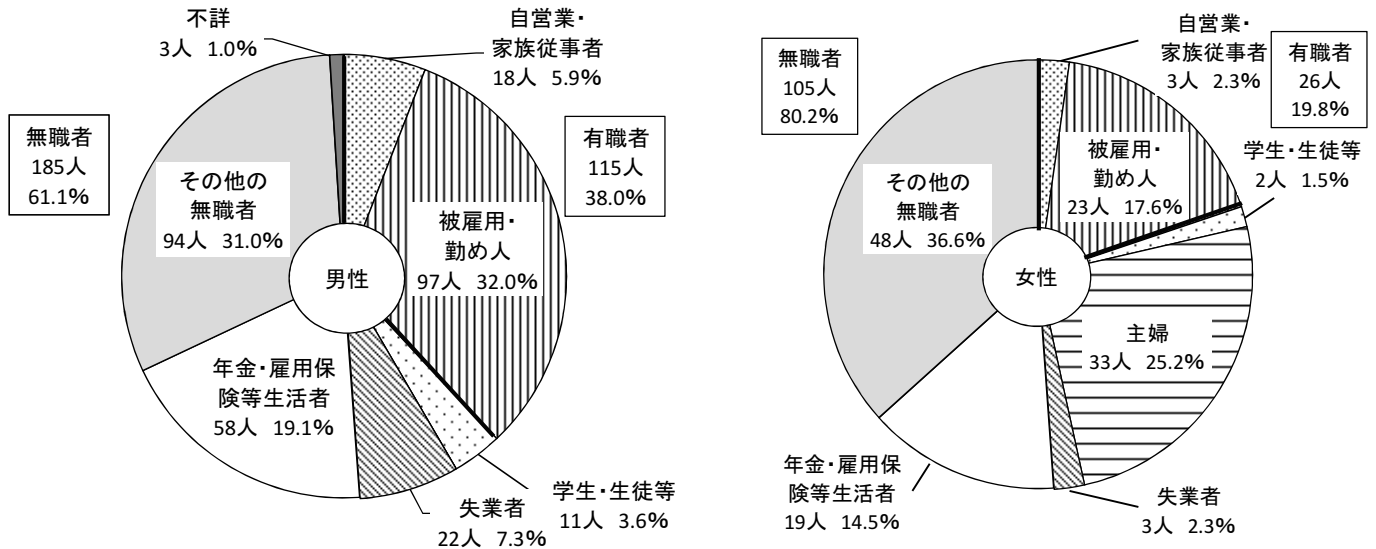


出典：自殺統計（警察庁）

(7) 職業別自殺者数（松戸市）

平成24年から平成28年までの5年間の自殺者数を職業別にみると、男性では「被雇用・勤め人」が97人（32.0%）と最も多く、次いで「その他の無職者」「年金・雇用保険など生活者」の順になっています。女性では「その他の無職者」が48人（36.6%）と最も多く、次いで「主婦」「被雇用・勤め人」「年金・雇用保険など生活者」の順になっています。

図6 職業別自殺者数（平成24～28年の合計）



出典:自殺統計(警察庁)

※無職者とは、学生・生徒、主婦、失業者、年金・雇用保険など生活者、その他の無職者を含む
有職者とは、自営業・家族従事者、被雇用・勤め人を含む

(8) 自殺未遂歴の有無（全国、千葉県との比較）

平成24年から平成28年までの5年間の自殺者を自殺未遂歴の有無別にみると、未遂歴「あり」は19.4%となっています。千葉県と比べやや低く、全国とほぼ同等の割合となっています。

表2 自殺未遂歴があった自殺者の割合（平成24～28年の合計）

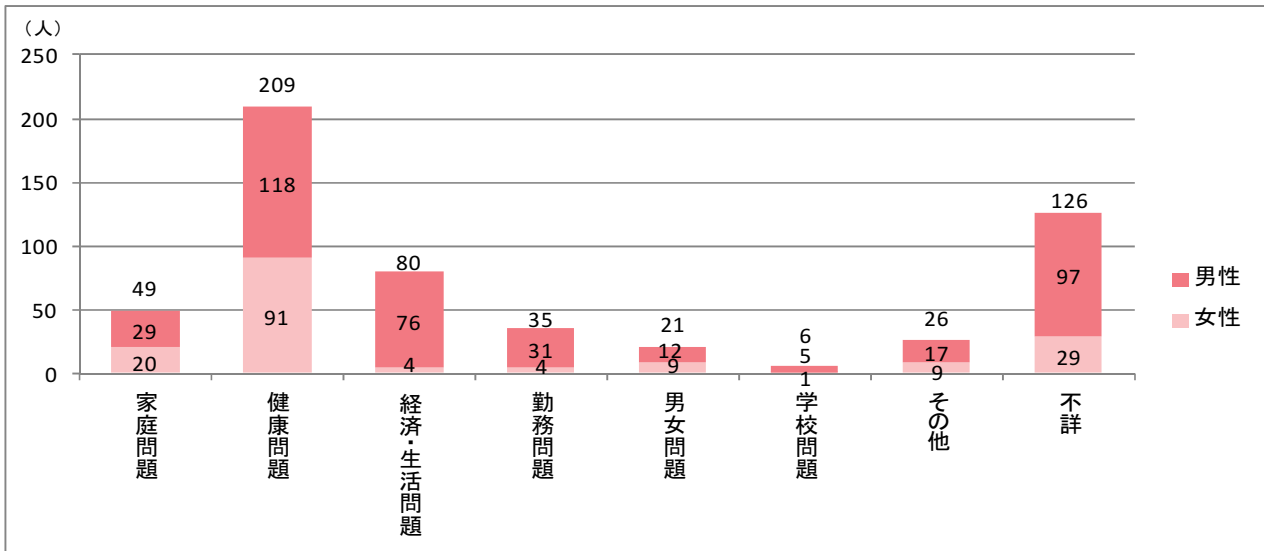
| | 松戸市 | | 千葉県 | | 全国 | |
|-------|-----|-------|-------|-------|---------|-------|
| | 件数 | % | 件数 | % | 件数 | % |
| 未遂歴あり | 84 | 19.4 | 1,242 | 21.1 | 24,841 | 19.8 |
| 未遂歴なし | 278 | 64.1 | 3,737 | 63.5 | 75,488 | 60.2 |
| 不詳 | 72 | 16.6 | 908 | 15.4 | 25,028 | 20.0 |
| 計 | 434 | 100.0 | 5,887 | 100.0 | 125,357 | 100.0 |

出典:自殺統計(警察庁)

(9) 原因・動機別自殺者数 (1人につき最大3つまで計上) (松戸市)

平成24年から平成28年までの5年間の自殺者数を原因・動機別にみると、「健康問題」が209人と最も多く、次いで「経済・生活問題」が80人、「家庭問題」が49人、「勤務問題」が35人となっています。「不詳」は126人でした。男女ともに、原因・動機として最も多いのは「健康問題」です。次に多いのは、男性は「経済・生活問題」で76人、女性は「家庭問題」で20人となっています。

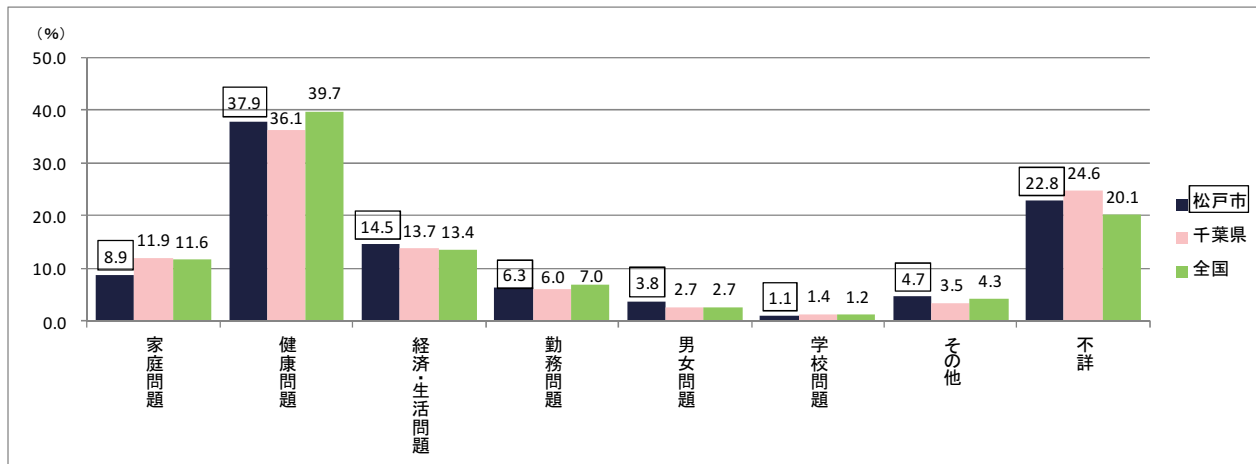
図7 原因・動機別自殺者数 (平成24～28年の合計)



出典：自殺統計 (警察庁)

原因・動機別で自殺者数の割合を見ると、「健康問題」が37.9%と最も高く、次いで「経済・生活問題」が14.5%、「家庭問題」が8.9%、「勤務問題」が6.3%となっています。千葉県、全国の割合も概ね同様の傾向でした。

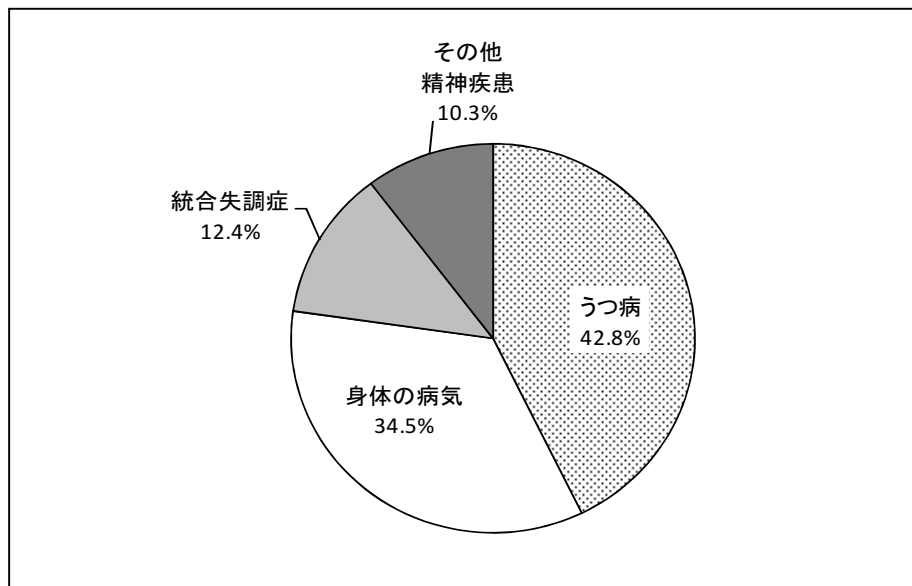
図8 原因・動機別自殺者数の割合の全国、千葉県との比較（平成24～28年の合計）



出典：自殺統計（警察庁）

原因・動機別のうち最も割合が多い「健康問題」の内訳を見ると、「うつ病」が42.8%となっています。統合失調症、その他の精神疾患を入れると、自殺する直前には、65.5%の人が精神疾患を抱えていたことがわかります。

図9 松戸市の健康問題内訳（平成25～28年の合計）



出典：千葉県警察本部提供資料より作成

【コラム】うつ病について

自ら命を絶った多くの方が、何らかの心の病気を抱えており、そのうち最も多いのが「うつ病」です。

「うつ病」は治すことのできる病気ですが、頑張りや気合いでは治りません。早期に気づき、きちんと治療することが大切です。

※資料3（P55・P56）参照



2 地域自殺実態プロフィールによる分析結果

地域自殺実態プロフィールとは、市町村が自殺対策計画を策定するにあたり、地域の自殺実態を理解できるようにするためのツールとして国から送られた参考資料集です。自殺実態の分析を共通の手法で行なったもので、他市町村と比較可能となっています。平成24～28年の5年合計の集計を用いており、性、年代、職業、同居人の有無から自殺者数が多い5つの区分が示されています。

以下、松戸市の自殺の特徴として国から示されたものです。

(1) 松戸市の主な自殺の特徴

松戸市の平成24年から平成28年までの5年間の主な自殺の特徴を見ると、自殺者数が最も多いのは「男性60歳以上無職同居者」、第2位が「男性60歳以上無職独居者」となっております。自殺死亡率では、「男性40～59歳無職独居者」が特に高くなっています。

表3 松戸市の主な自殺の特徴（特別集計（自殺日・住居地）平成24～28年合計）

| 上位5区分 | 自殺者数 5年計 | 割合 | 松戸市 自殺 死亡率 ¹⁾ (10万対) | 全国 自殺 死亡率 ¹⁾ (10万対) | 背景にある典型的な 自殺の危機経路 ²⁾ |
|-----------------------|-------------|-------|--|---|------------------------------------|
| 1位: 男性60歳以上 無職同居者 | 51 | 11.8% | 32.6 | 36.0 | 失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺 |
| 2位: 男性60歳以上 無職独居者 | 35 | 8.1% | 85.3 | 96.2 | 失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺 |
| 3位: 男性40～59歳 有職同居者 | 35 | 8.1% | 13.5 | 20.0 | 配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺 |
| 4位: 男性40～59歳 無職独居者 | 32 | 7.4% | 346.7 | 275.8 | 失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺 |
| 5位: 女性60歳以上 無職同居者 | 29 | 6.7% | 11.2 | 16.7 | 身体疾患→病苦→うつ状態→自殺 |

出典：地域自殺実態プロフィール（自殺総合対策推進センター）一部改編

※ 順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

1) 自殺死亡率は対象となる母集団の人口10万人に対する自殺者数であり、平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

2) 「背景にある典型的な自殺の危機経路」は自殺実態白書2013（NPO法人ライフリンク）を参考にした。

「背景にある典型的な自殺の危機経路²⁾とは

NPO法人ライフリンクが行った500人以上の自殺で亡くなった方についての実態調査から、自殺は平均すると4つの要因が連鎖して引き起こされており（参考:P16 図10）、それらの要因の連鎖のプロセス（以下、「自殺の危機経路」という）は、性、年代、職業などの属性によって特徴が異なることが明らかになりました。（詳細は「自殺実態白書2013」）

上記表3の「背景にある典型的な自殺の危機経路」の列には、それぞれのグループが抱え込みやすい要因と、その連鎖のうちの典型的なものが記載されています。

3 松戸市の自殺の特徴のまとめ

◆ 自殺者数は減少傾向、自殺死亡率は低下傾向

松戸市の自殺者数は、平成 22 年の 121 人をピークに概ね減少傾向にあり、平成 28 年には 82 人となっています。(P6. 図 1) 自殺死亡率(人口 10 万対)も低下傾向にあり、平成 22 年には 25.3 でしたが、平成 28 年には 16.7 まで低下しています。(P6. 図 2) しかし、依然として年間約 80 人の方が自ら命を絶っていることから、引き続き自殺対策を推進していくことが必要とされています。

◆ 「男性 40～59 歳無職独居者」の自殺死亡率が高い

「男性 40～59 歳無職独居者」における自殺死亡率が 346.7 と非常に高くなっており、(P14. 表 3) 働き盛りの男性が失業により陥る経済問題などが自殺の背景の一つになっていると考えられます。

◆ 「男性 60 歳以上無職(同居・独居)者」の自殺者数が多い

男女別では、全国と同様、男性の自殺が多く、そのうち自殺者数が最も多いのは「男性 60 歳以上無職同居者」であり、全体の 11.8%を占めています。また、「男性 60 歳以上無職独居者」が 8.1%で第 2 位となっております。(P14. 表 3)

◆ 若年層(39 歳以下)の死亡原因の上位が自殺

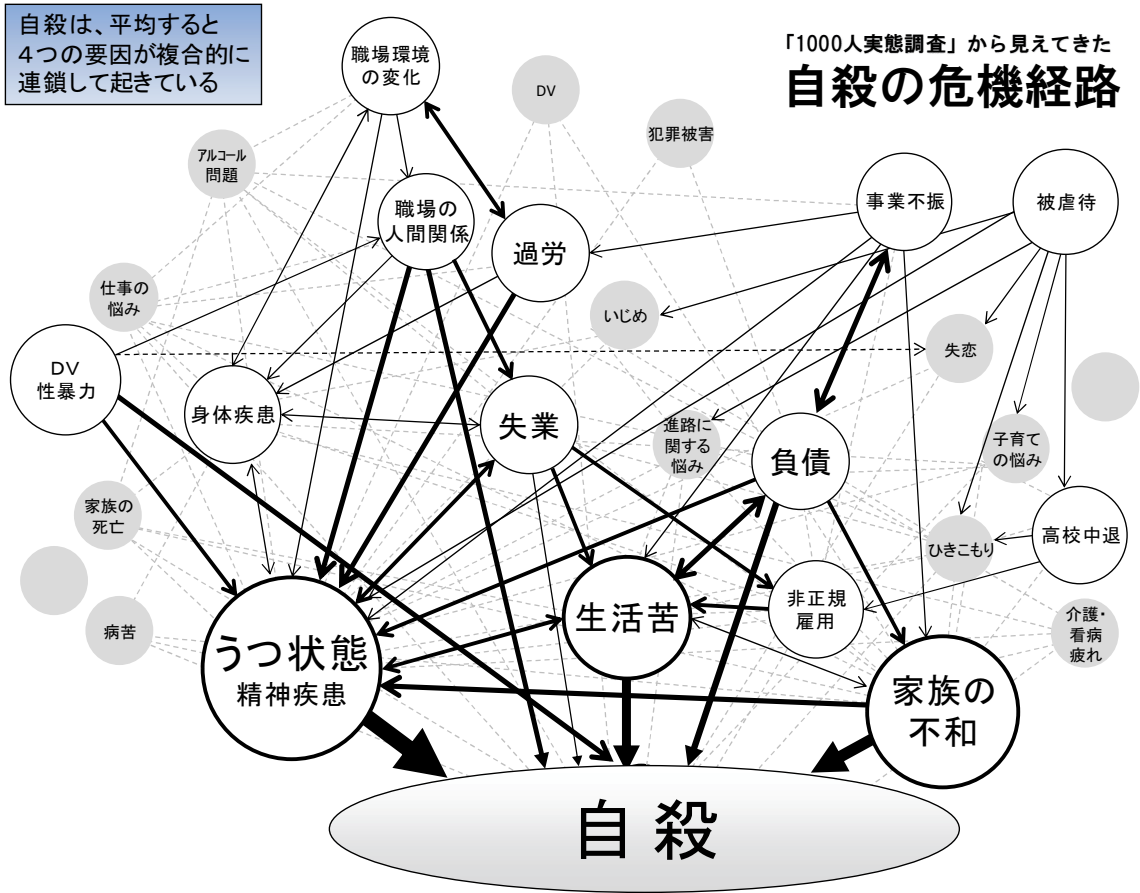
年代別に見た死亡原因では、自殺は 20 歳代、30 歳代では第 1 位、20 歳未満でも第 2 位であることから(P9. 表 1)、若年者の自殺対策にも力を入れていく必要があります。アンケート調査では 20 歳代、30 歳代の若年者で自殺を考えたことがあるという回答が多くなっています。(P53. 図表 5)

4 松戸市において重点的に取り組む対象

松戸市の自殺の実態を分析した結果や、国から示された「地域自殺実態プロファイル」(P14. 参照)から、今後、重点的に自殺対策で取り組むべき対象を以下のとおり定めました。

- (1) 生活困窮者
- (2) 高齢者
- (3) 勤務・経営者
- (4) 子ども・若者

図10 自殺の危機経路



出典：自殺実態白書 2013（NPO法人ライフリンク）